

JAXA の田中・国際部長が資料 35-1 (IAC プラハ大会) を 9 分程で説明した後、30 分弱の質疑応答があった。

(録音に失敗したので、要点のみ記録した。)

井上: 機関長会議は毎回開かれて居るのか?

JAXA 田中: 此の処毎回開催されている。

井上: 機関長会議は 5 機関だけで行われて居るのか?

JAXA 田中: 今回、カナダと中国は都合が悪いと云う事だった。毎回全ての機関に声掛けをしている。

井上: 今回日本から学生を参加させているが、どんな選ばれ方をした結果なのか?

JAXA 田中: 私は良く知らないのですが、後で、**別途**<sup>1</sup> 回答されて頂きたい。

池上委員長: 学生が行ったパネル講演は良かった。疑似裁判は水曜日に行われ、東大の学生が良くやった。

私も此の会議に参加した。ISE は 年に始まり、前々回福岡、前回デジュンで行われ、今回プラハで行われた。自分は参加するかしないか迷っていたが、チェコが日本との会議を企画し、其処での講演を依頼されたので参加する事に決めた。 の山川事務局長も、京大教授の名前で参加しており、Government Space Policy Change と題して、日本の戦略方針

<sup>1</sup> 会議中に問い合わせた様で、「インターネットで公募を行い、其の応募者から選定した。」と云う回答が後で行われた。

【議事(1)】 第 61 回国際宇宙会議(IAC) プラハ大会の参加結果について

を発表した。セミナには、JAXA の立川理事長、SJAC の坂本部長、ISAS の藤井先生、 の藤野氏が参加、結果は成功だったと思う。チェコは部員輸出に興味があり、日本では宇宙用部品認定をどうして居るのかと云う質問があったりし、会場は盛り上がった。チェコが部品の認定に関心を持って討議が行われたので、此の会談に依って部品認定の問題点も出て来たと思う。チェコ大使館が主催した会議で、自分は宇宙の司会を仰せつかった。議論を通じ、チェコでは文科省と運輸省が宇宙の活動を管轄していると知った。嘗ては日本と同じ技術立国であり、ソ連崩壊後混乱もあったが、其の後 ESA に加盟している。現在日本企業が 250 社程進出している。チェコ政府も発足 1 年未満で、未だ十分安定して居らず、チェコの宇宙は日本と似た様な環境にある様に感じた。チェコの文科省はサイエンスを重視し、運輸省はイノベーションを重視している。更にチェコ・サイエンス・アライアンスと云う業界団体や、 があり、4 者が対立している。チェコの企業は色々な国との連携をしていると云う実体を知った。またベンチャが下支えをしている。欧州全体がギリシャの財政危機に依る曲がり角にある中、企業は独自の活動を行い、邦を越えての協働を目指して努力している。

NASA のドーダン長官とも話をしたが、ドーダン長官は此れからの宇宙はサービスへの展開が重要だと言っていた。ドーダン長官とはまたイノベーションに関しても議論したが、時間を限定するのはイノベーションにとって良くないと言っていた。

また、の山川氏と、の浅尾氏が出席したパネル(?)では、チェコでは官需市場と民需市場とにギャップがあり、ビジネスモデルが出来て居ないと云う発言があったが、日本と同じだと感じた。

ヨーロッパの中ではイギリスが力を付けて来ている。マーチン・ (サリー大学?)は、データポリシが足かせになって居ると言っていた。JAXA にも検討する様に云っておいたが、JAXA は其れをやって居るんでしょうネエ。...

予想外だったのは、スペース・ヒューマン・エクスプロレーションについて CNES が言っていた事で、人文社会系の学者とも議論を深めており、火星に向けた活動について、今迄どうやって実現するか<sup>2</sup>の議論を行なって来たが、此れからは何の為に火星を目指すのかの議論が重要だ<sup>2</sup>と考えて此の議論を進めて居ると云う事だった。NASA のアラン・ラドウィックとも話をしたが、「此れからはHowよりWhyが重要である。」と言っていた。アランはオバマに任命された方で、オバマに任命された人々は同じ様な認識に在る様だ。今回、此の様な議論の

<sup>2</sup> 元々それなくして火星探査の議論が行われる事は無いと思っている。月への有人飛行は、冷戦構造の中の東西の第 1 国が、其の国威発揚の為に行った事は、多くの合意する意見だと思うが、其れ以降の宇宙探査は、其の様な理由では実行に移す事は出来ない。国力の衰退するリスクを払拭できると云う見通しが無いと思う。そこで、非公開の場では其の意義について真剣な議論が行われてきたに違いないと思っている。

始まるきっかけに居合わせた事は大変有意義である。

前の NASA 長官のグリフィンと現 NASA 長官のポールディンが話をして居る処を目撃したが、不自然に話をしていて、引き継ぎを含め、今迄余り話し合いをしなかったものと想像する。

それにつけても、海外から見ると日本が解らない<sup>3</sup>と云う話を良く耳にした。日本のプレゼンスが低いと云う事で、スペース・ニュースでも日本特派員を止めた<sup>3</sup>と云う話を聞いている。

また、宇宙開発委員会と云う言葉が出て来なかったし、宇宙開発委員会と云う存在を知らない外国人が多く、「JAXA のスーパーバイズをしている組織だ。」と云うと「アア、そうか。」と分かってくれる。

チェコの宇宙産業規模は 25M EU で、此れから延びる事が期待される。

「ノーベル平和賞を ISS に与えたらどうだろうか。」と云う話が、冗談として出されたが、此れだけの事業を国際協力に進めた

<sup>3</sup> 「火星有人探査の人文社会的意義」と云う言葉に驚かされるのが、其の証拠になるのではないかと思うが、「予算を付けて貰えたから実行し、此れだけの成果が得られた。」と云う発言しかなく、予算配分の裏付けになった「国家としての意義」に関する日本の戦略が推定出来ないのである。宇宙開発委員会が総理大臣の諮問機関で、5 年毎に宇宙開発基本計画を発表して居た頃には、其の緒言の中で構想や戦略に関する記述が鏝(ちりば)められていたが、今は、計画に関する表記しかなくなっている。此れでは外から見ても解らないくて当然だろう。

のだから、強(あなが)ち冗談とばかり言っていられない。唯、3人迄と云う事になるから、どう云う風に受賞者を絞れば良いのか難しい。田中さん、何か間違いとかありませんでしたか？

JAXA 田中: 大した事ではないが、福岡は確か 2005 年で、デジュンの前は で開催されたと記憶して居ります。

森尾: 他所の国はビジネスブースを出していたと云う事だが、どんな様子だったか。

JAXA 田中: 各社はビジネスチャンスと捉えて居ると云う話だった。

森尾: 実際に其の場でビジネスの交渉が行われて居たのか<sup>4</sup>？

JAXA 田中: (メモ出来なかったが、商談を目撃したと云う話は無かった。)

森尾: バイラテラルにやって居る処を見る様な事は無かったか？

JAXA 田中: (同上)

森尾: 日本企業の参加は無かったのか。

JAXA 田中: 日本からは、企業とは一寸違うが、ハステックが参加した。

---

<sup>4</sup> 此の様な場所でキラキラした商談が行われる事は殆ど考えられない。宇宙よりも遥かに大きな市場を持つ航空機の展示会(パリ・ファンボロのエアショー)でも会場での商談は行われない。商売相手をシャレに招待し、食事をしながらデモフライトを見るのである。どの企業の誰が、其の企業の誰をシャレに招待したかと云う、形で示す儀式の場なのである。商談らしき議論をしている者も、気になった商品について技術的な質問をしている事が多く、其処の商品を買おうと云う者より、其処の技術をただで盗み取りたいものが多い。

【議事(1)】 第 61 回国際宇宙会議(IAC) プラハ大会の参加結果について

池上委員長: MHI は参加しても良いのではないか。

JAXA 田中: モデルを展示したり、宇宙関連企業各社のパンフレットを用意<sup>5</sup>したり、各社に協力して貰った。ブースでの接触を企業に繋いだ件数が 14~5 件あったと聞いている。

池上委員長: MELCO や重工に参加して貰うと良い。然し、此処はアカデミックな場なので、...

JAXA(傍聴者席から): スエーデンのブースでは、1~5 ニュートンのスラスタを展示し、商談が行われて居た様子だった。

池上委員長: アカデミアが原則なので、まあ斯う云う事なのだろう。

登録費が 10 万円で高いと云う声も聞こえた。

それではどうも有り難う御座いました。

---

<sup>5</sup> 各社は此のやり方には興味を示す。自社に力のある処を、世界各国の方に知って貰う良い機会と考える。パンフレットも決して安いものではないが、対象者が絞られている分、テレビコマーシャルよりも良い面もある。但し、景気の良し悪しに依って、企業の参加意欲が大きく揺れる。展示会と云うのは結構大変な事業なのである。